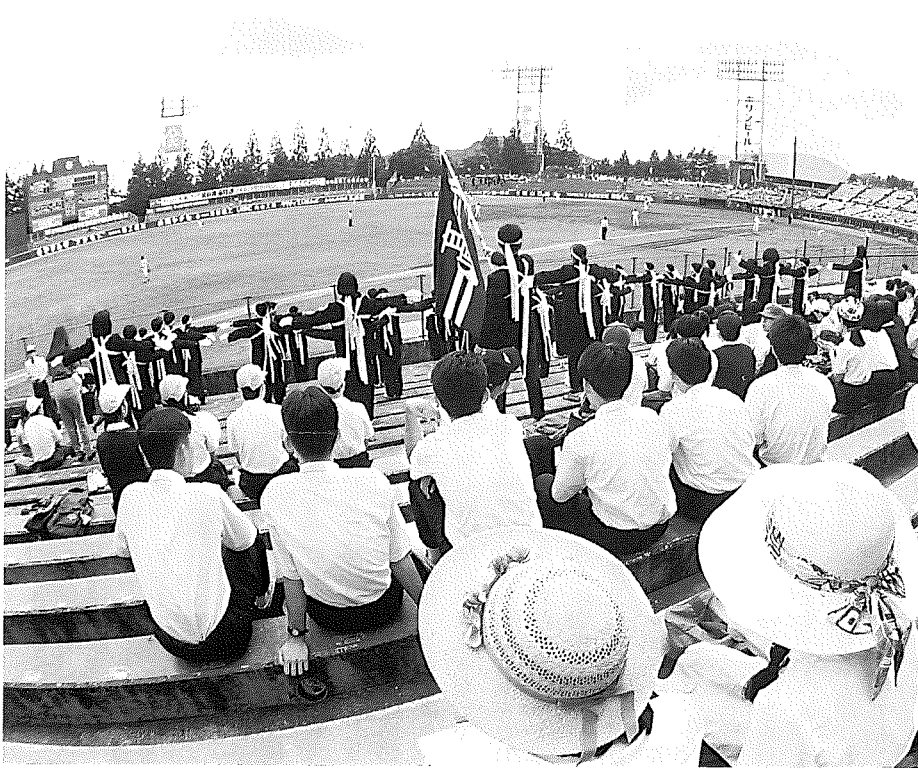
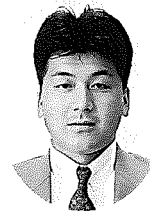




第 5 号  
 平成 5 年 8 月 1 日 発行  
 発行 岡山白陵会  
 〒709-7  
 岡山県赤磐郡熊山町勢力588  
 TEL. 08699-5-1 2 5 5



# 野球部OB会発足



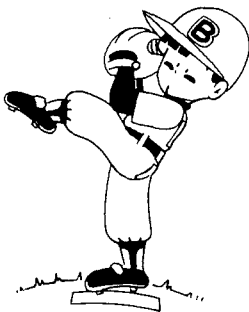
生 11 回  
 羽 瀨 繁

「野球をしたい者は集まれ」の放送文句で始まった母校野球部も、はや、創部十六年目を迎えます。年々、力をつけているものの残念なことに夏の県大会では未だ勝利を手にしたことがないのが現状です。私は十一回生で昭和六十一年から平成元年までの三年間野球部に所属していました。この間の戦績は十勝(公式戦は一勝)?敗と覚えきれないほど惨々たるものでした。しかし、文武両道をめざした私達にとって

学内においても関係者が多く、恵まれており、後は私達OBがOB会を創り、物心両面から後輩たちを支援できればと思います、今回の発足に踏切りました。今後、これを機に現役、OBが一体となりチームの勝利はもとより、母校野球部の発展につながればと思っております。

勝った時の喜びは言葉では、言い表せなくその日の夜は興奮して寝つけなかったのを今でも覚えています。私はその後、大学で四年間、体育会硬式野球部に所属しました。そこで学んだ一番大切なことは、部活においてチームが強くなるには、部員のがんばり、環境、そしてOBを始めとする部をとり囲む人々の支援である「ということ」でした。幸いにも母校野球部には、初代監督の長谷川先生、一回生の志水先生など、

今回、原稿を依頼され、執筆しているうちに自分自身の高校時代、野球部時代を鮮明に思い出しました。夏が近づき、高校野球の季節がやってきます。多かれ少なかれ、夏になるとテレビのチャンネルを高校野球に合わせる人も多いと思います。いつの日か、母校の校歌が聴ける日を……。





# 野球部OB会発足にあたって



野球部顧問  
大森 博幸

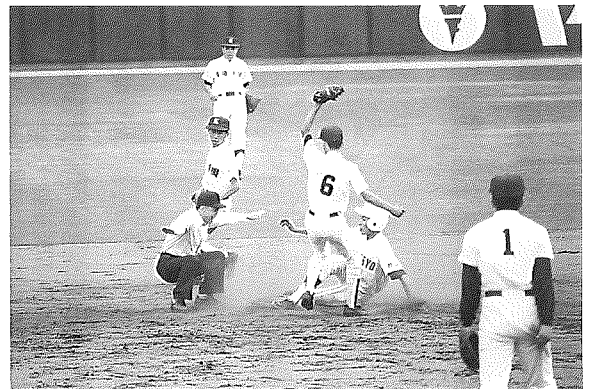
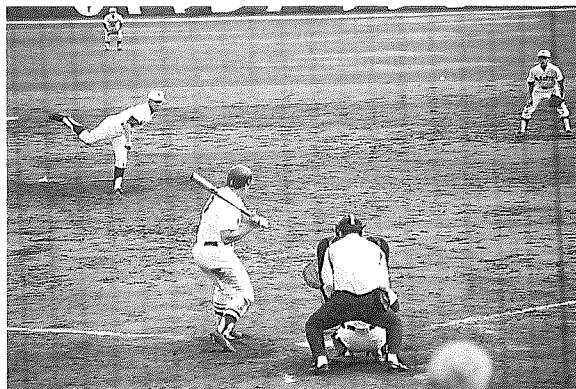
この度、十一回生羽瀨繁君が発起人となり、硬式野球部OB会が発足しました。創部以来十七年目を迎え、野球部OBだけでも百名を越すぐらいになつた今、物心両面から後輩たちを支援してくれるというOBたちの心意気をひしひしと感じ、非常に有難く思います。

私も昭和五十八年に監督となり、昭和六十年からは部長として、十一回目の夏を迎えようとしています。昭和六十年の秋の東部地区予選の対興陽戦で、川谷君のサヨナラホームランで、公式戦初勝利を挙げたときの感動は今でも脳裏に焼きついています。その後、地区大会や練習試合では、強豪と呼ばれるチームとも十分互角の試合をすることもありましたが、夏の選手権岡山大会だけは未だに一回戦を突破できていないのが現状です。戦力的には年々向上してきているし、部員数も二十五名より三十名位はおり、短い時間、狭いグラウンドという悪条件ではありますが、結構、内容の高い練習を行っています。しかしながら夏の大会だけは、突破できな

い、大きな関門となっています。OB会が発足し、現役選手たちも、今までより一層、練習に熱が入り、とにかく初戦突破を目標に日々頑張っています。

進学校というところで、どうしても勉強オンリーになりがちな本校において、クラブ活動との両立はなかなか難しいことだとは思いますが、しかし、限られた時間と場所で精一杯、汗を流す。そして、眠い目をこすりながらも、夜は学習に集中する。それが、三年間でできれば絶対、大学入試においても成功を収めます。野球部出身者が他の生徒よりも進学成績がよいというのは校内でも評判です。そして、何よりも、人間として、社会人として、有為な存在となるためにも、野球で培った体力、精神力、集中力、瞬発力は、何物にも代えがたい大きな力であると信じます。

今後、野球部、そしてOB会が益々、発展していくよう私も力を尽くしていきたいと思えます。卒業生諸君も大いに応援してやって下さい。



# 母校での教育実習について



12 回 生  
三輪 田 亮

今回の教育実習では、二週間という大変短い期間ではありましたが、私は非常に多くの事を学ぶことができたと思います。

まず教員という仕事の大きさです。

教員は生徒にわかりやすく、或いは生徒が自主的に参加できるように、そして生徒への配慮も忘れない授業をしなければなりません。それには不断の努力が必要であり一朝一夕にはできません、ということをもつて体験できました。また、学校、授業、生徒、その他様々の事項に関する書類や会議などの事務処理も多くこなさなければなりません。さらに悩みや迷いをもつ生徒に対して常によき相談相手であることも教員には要求されます。教員には一人何役もこなす力量が必要であると思えます。

それから久しぶりに母校にかえって実感したのは岡山白陵という学校の素

晴らしさです。この学校はよく偏った学校と言われます。確かに進学校であり、どうしても受験勉強に埋没してしまいがちです。しかし逆に進学という目標に向かって先生と生徒が一体となつて努力している点は、他校にない良さだと思いました。

教員も皆さん非常に熱心であり、かつ人間味あふれる温かい心を持っています。私にとってはよき恩師であり、社会人としてのよき先輩であると思えます。

私がこの学校で過ごした二週間は今後私の中で大きなものになると思えます。温かく適切な御指導をしてくださった岡山白陵の職員皆様に深く感謝の意を表したいと思います。



# 教育実習をふり返って

十二回生 勝田 敬子

私にとってこの二週間の実習は、教育実習であると同時に社会人実習であった。校長先生を始め諸先生方に御指導頂き、のんびりとした学生生活に喝を入れられた思いである。

二週間の心境を表現するなら「がむしゃら」の一語につきる。教材研究、指導案作り、そして授業と、とにかくがむしゃらだった。良く言えば一生懸命、しかし、精神的に余裕がなかった。だから、授業中も生徒の気持ちを把握することなく、強引に自分のペースで進めてしまったと反省している。もつと生徒達と接し、いろいろ話したいと思ったが、毎日の授業のことで、物理的にと言うより精神的に余裕がなくなってきた。自分が教壇に立ち、教えることは教わることより何倍も難しいということを感じた。

このような未熟な私がかんとか実習を終えることができたのも先生方の温かい御指導があったからこそである。本当に御忙しい中、貴重な時間をさい

て、指導して下さった。特に指導教官であり、高校時代の恩師でもある馬場先生には、たいへん丁寧に指導していただいたうえ、何度も励ましてもらい感謝の気持ちでいっぱいである。同じ教材なのにクラスによってなかなか思うようにいかないと思つた。「授業は生き物である」との先生の言葉は心に響いた。

実習を終え、京都に向かう新幹線の中で生徒達からのメッセージを読んだ。「その明るいままで先生になって下さい。」「いい先生になって下さい。応援して下さる！」。私にとって何よりの宝物だ。

「若さと理想」というのが私が扱った教材である。短い間ではあったが、まさに未来そのものと言える後輩達とこのようなテーマを考えることができただけは幸せだった。一生忘れられないようなすばらしい経験をさせて下さった母校に心から感謝している。

◆ 大学入試合格者数

国公立大学	元年	2年	3年	4年	5年	私立大学	元年	2年	3年	4年	5年
東京大学	1	1	3	1	5	早稲田大学	7	12	6	14	9
京都大学	1	5	12	11	14	慶応義塾大学	4	12	9	19	12
大阪大学	3	7	7	8	4	上智大学	1	0	5	0	1
北海道大学	1	0	3	3	1	東京理科大学	2	7	9	6	5
東北大学	4	2	3	3	4	関西学院大学	16	13	8	22	16
名古屋大学	2	0	0	2	1	関西大学	11	24	17	29	17
九州大学	5	4	2	10	3	同志社大学	9	8	10	20	15
神戸大学	3	2	4	8	6	立命館大学	6	7	4	14	10
岡山大学	16	5	8	8	6	大阪医科大学	4	3	6	4	2
広島大学	4	0	5	4	4	関西医科大学	3	3	3	2	3
大阪市立大学	8	3	1	1	3	兵庫医科大学	3	3	3	1	3
他国公立大学	69	72	107	105	74	他の私立大学	49	80	102	104	114
国公立大学計 (内 医学部)	117 (14)	101 (10)	155 (13)	164 (28)	125 (19)	私立大学計 (内 医・歯)	115 (15)	172 (25)	182 (30)	235 (16)	207 (32)
国公立大学合格率	80.7	82.1	104.7	85.0	72.3	卒業生数	145	123	148	193	173

住所変更のあった会員

卒業回生	氏名	郵便番号	住 所	電 話
1回生	雪 吉 良 白			
11回生	大 山 泉			

園長先生没後十年にあたり

我らが園長、三木省吾先生がなくなられてはや十年が経ちます。先日、学校では園長先生を偲んで、長谷川先生より、全校生徒に対して話がありました。ただ、今の生徒は、園長先生のかけらも知らないせいなのか、昔の様子を聞かされても何か夢（悪夢？）物語を聞かされているようで、世代の差というものを少し感じてしまいました。

我が母校、岡山白陵はもうすぐ二十周年を迎えようとしています。在りし日の園長先生の姿を思い浮かべに、お墓参りにでも行くこうかなと考える今日この頃です。

編集後記

同窓会活動も、年々充実し、会報も、第五回を数えることとなりました。これも一重に会員の方々のおかげと感謝しております。

さて、我が母校ももうすぐ創立二十周年迎えます。これを期に同窓会名簿の作成、第一回の総会等の案が提出されています。総会に対する皆様の様々な企画をお待ちしておりますので、宜しくお願いいたします。

最後になりましたが、この会報作成にあたりご協力いただいた各方面の方々に、心より感謝申し上げます。